

新型コロナウイルス感染症問題

～誰もが安心して暮らせる社会に向けて～

新型コロナウイルス感染症に関する、誤解や偏見等により、不当な差別、いじめ等があらはなりません。そうした誤解や偏見が広がることは、新型コロナウイルス感染症に関する人々の不安をあおることになります。



あなたはしていませんか？ こんな行動

- インターネット、SNS上での誹謗中傷や不確かな情報の拡散
- 感染者の子どもに対するいじめ
- 咳をしているだけで、「感染者ではないか」と疑い、避ける
- 海外から帰国したことだけをもって中傷する
- 感染は本人の責任であると中傷する
- 医療従事者や家族に対する差別的な行為
- 宅配業者の配達員への心ない態度

新型コロナウイルス感染症に関する不確かな情報で、発熱のある方の感染を疑ったり、感染者やその家族を差別したり、誹謗中傷する動きは、およそ90年前にハンセン病に罹患された方やその家族を社会から切り離し差別したと重なるところはないでしょうか？

ハンセン病は、「感染する」「治療方法がない」などの誤った情報によって、罹患された方は様々な差別を受け、隔離施設での生活を余儀なくされました。

戦後、特効薬によって治療法が確立したものの、社会の誤解や偏見はなくならず、罹患された方やそのご家族は、今もなお差別に苦しんでおられます。

今、新型コロナウイルス感染症に関連して、感染者、濃厚接触者、医療従事者など懸命に社会生活を支えている方々に対して、感染に対する恐怖心や不安な気持ちなどからくる、誤解や偏見に基づく差別、いじめなどが多く発生しています。私たちは、過去の過ちを再び繰り返してはなりません。

正しい情報に基づき、冷静な行動をこころがけましょう。

人権に関するご相談について

新型コロナウイルス感染症に関連しての不当な差別、いじめ等のさまざまな人権問題についての相談を受け付けています。

大阪市人権啓発・相談センター

06-6532-7830 FAX 06-6531-0666

大阪市西区立売堀4丁目10-18 大阪市阿波座センタービル1F
相談時間：月～金/9:00～21:00 日・祝日/9:00～17:30 ※土曜日、年末年始(12/29～1/3)は休業

Q.3

「緊急事態宣言」を体験して、皆さんの心の変化のようなものがあれば教えてください。

坪井さん 平時とは異なる制約がある中で、今できることだとか、新しくこういうことができるのではないかと考えることが必要だと思いたくそう考えるようにしてきました。とは言え私自身もずっと家にいたりするので体力が落ちてしまっていたり、1日にこなせる物事の量が減ってしまっているなあと、コロナ後の自分に不安もあります。が、こればかりは少しずつ慣れていくしかないのかなと思います(笑)。

田邊さん 多くの人が“Stay Home”や“Enjoy Home”を実践していたので、みんなの意識の高さが素晴らしいなと感じました。緊急事態宣言期間も誰かが働かないと社会は回らないので、不安な気持ちを持ちながらも働いてくださった医療関係者やスーパーの人には感謝の気持ちでいっぱいです。今まで自分はほかの人と比べてやりたいと思うことが少ないと思っていたんですが、たくさんの方が制限された期間を通して、解除後にしたいことが沢山あるなと思うようになっていました。それは、今まで自分がいつかできるからと後回しにすることが多くて欲求も少なかったんだらうなという気づきにつながりました。今、学生のうちにできることをたくさん経験しようと思っています。

坪井さん コロナ禍は徐々に収束していくと思いますが、これまでも全く同じ日常が戻ってくることはないのかもしれないなと思いました。常に他の人との距離感に気をつけなくていけなくなったり、ピュウフェスタイルの外食ができなくなったり…。もちろんそういうネガティブな面ばかりではなく、オンラインでのやり取りが広がり、地方にいても取れる選択肢が増えるかもしれません。今後世界がどんな風に変っていくのか、注意深く見ていきたいなと思いますし、変化を恐れずに生活していきたいなと思います。

杉村さん 報道を目にする中で攻撃的になっている方や思いやりに欠ける行動を取られる方が増えてきている印象を受けました。高騰するマスクを高額で転売する方まで見受けられるようになったときはとても胸が痛みました。ついには「自衛警察」なる過激な人々が動きはじめ、ウイルスよりも人の攻撃性や豹変ぶりに恐怖を覚えました。身体的には健康でも、心がウイルスに侵されてしまっただけで間接的に感染していることと同じだと思います。この機会に、曖昧な知識に振り回されず、情報を見極める力を養えたらと思っています。

学生のみなさんのお話からは、「この経験を決して無駄にしてはならない」「どんな時も思いやりや感謝の気持ちを持つことが大切」「大変な時だからこそ、正しい情報に基づいた行動をしなければ」といった思いが強く伝わってきました。そして、このようなみなさんが増えていけば、差別のない、誰もが認めあい尊重しあえる社会が作られていくのだらうと思いました。今回の「緊急事態宣言」という経験を通して、次に困難が訪れても、みなさんは強く優しく立ち向かって行ってくれるのだらうと誇らしい気持ちになりました。



三島さん 普段通りの生活に戻りつつあることに喜びを感じながらも、また感染者が増えるかもしれないことに不安を感じます。

少し体調が悪いだけでも、新型コロナウイルス感染症のことが頭によぎりとても不安になります。心から、感染が収束して欲しいです。

岡場さん 最初は他人事のように感じていたことが段々身近になっていったのには恐怖を感じました。どんどん感染が広がっているのはわかっていましたが、まさかここまでことになるとは思っておらず、バイト先が休業になったときとんでもないことが起きているのだなと感じるようになりました。それがわかってからも春休みが延びたみたいで、少し嬉しい気持ちもどこかでありました。でもこの考えは間違っていたなと感じました。自由に人に会えない、出かけられないことがこんなにも苦痛であると知らなかったし、めんどくさいことでもそれが出来ていた自分は幸せだったのだと改めて感じました。様々な情報に振り回されるのではなく、何が正しくて必要なのは自分が考えていかないとけないと感じました。

山下さん 学校に行くのも、バイトに行くのも正直面倒くさいし疲れると思っていました。でも、学校にも行けない、友達にも会えない、バイト先も営業しないということを初めて経験して、勉強できる環境が整っていることや働ける環境があることの大切さを痛感しました。また、自粛生活では運動をしてみたり、料理を手伝ったりと、普段は時間が無くてできなかったこともやってみました。いろんなことに挑戦してみた期間でもありましたし、自分を見直すきっかけになったと思っています。

